

Messor capitatus

(Latreille, 1798)

キャピタトゥスクロナガアリ

乾いた岩場で、頭の大きな大型働きアリが硬い種子をすりつぶして「アリのパン」にする、つやのある黒い種子収穫アリです。



写真：Philipp Hoenle (myrmecophil), CC0 1.0

ひと目でわかる情報



巣の温度
22–28 °C
巣の中



巣の湿度
50–60 %
穀物庫：30–50 %



休眠
10–15 °C
12月–2月



結婚飛行
9月–11月
雨のあと



働きアリ
4–8 mm
大型働きアリは最大13 mm



女王
13–15 mm
女王は1匹



コロニーの規模
働きアリ5,000匹規模
成長速度：速い



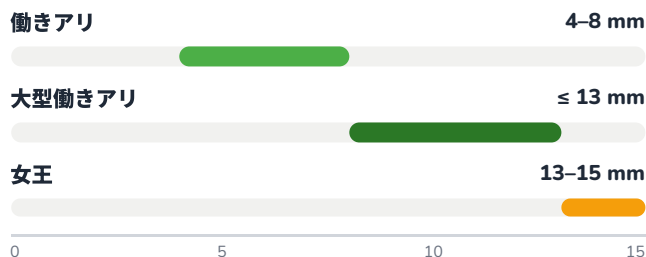
脱走リスク
低い
おとなしく、めったに脱走しません

1年をひと目で



月は温帯ヨーロッパと地中海地域の目安です。正確な日は天気で決まるため、お住まいの地域では飛行が早まったり遅れたりすることがあります。

同じ縮尺での大きさ



飼育の早見表

食べ物

種子

昆虫

砂糖

おすすめの巣

- Ytongの巣
- アクリル製の巣
- 自然再現型のセットアップ

この評価の理由

- ✓ おとなしく、めったに脱走しない働きアリ
- ✓ 完全閉鎖型：最初の働きアリが現れるまで、女王に餌は不要です
- ✓ 種子を貯めるので、餌やりを忘れても問題ありません
- ⚠ 乾いた穀物庫と湿ったブルード室のように、湿度の勾配が必要です

飼育者からのメモ

ヒント

最初の働きアリには、タンポポや草の種子のような小さな種子を与えましょう。いちばん小さな働きアリでも、自力で割れます。最初の働きアリがまだ割れない硬い種子は、女王アリ自身が割る手助けをしてくれます。

注意

掘る力が強く、おもに湿った場所で、Ytongや湿って柔らかくなった石膏にトンネルを掘ります。部屋とガラスのあいだには厚い壁を残しておきましょう。